

2019 SUPER GT 第3戦

鈴鹿サーキット

2019年5月25日(土)

予選

来場者: 21,000人

天候: 晴れ

SUPER GT 選手権は、これまで不順な天候に翻弄される状況が続いたが、第3戦の鈴鹿は、予選、決勝共に好天に恵まれ、5月としては観測史上最高の気温が記録されることとなった。練習走行で大きくセッティングを変更するというシーンはあったが、その後、本来のパフォーマンスを発揮した LEXUS TEAM KeePer TOM'S の 37 号車は、予選でポールポジション獲得へ向けてタイムアタックをするも、結果として2番手グリッド、フロントローを獲得。同じフロントローのポールポジションを獲得したのは、チームメイトの36号車という結果だった。トムスがフロントローを独占した。



- 5月としては、全国各地で記録的に気温が高くなり、予選が始まった時点で28度、路面温度は、41度だった。
- ニック・キャッシュディが Q1 を担当。3番手のタイムをマークして余裕をもって Q2 に進出を果たした。
- Q2 が開始される頃に若干気温、路面温度が下がり始めたが、この時期としてはいぜんとして高温の状況は変わりなかった。
- 平川 亮が Q2 を担当。前車との間隔を上手く開けてからアタックを開始した。コースインしてから3周目にベストタイムを記録し、その時点でトップとなっていた。
- 直後にアタックをかけていた 36 号車が 4 周目にベストタイムを叩き出し、0.013 秒差で逆転された。
- フロントローをトムスが独占した。

Driver	Car No.	Qualifying 1		Qualifying 2	
平川 亮	37	P3		P2	1' 45.788
ニック・キャンディ			1' 46.311		

天候/路面	晴れ/ドライ
気温/路面温度	31°C/48°C~28°C/41°C

平川 亮(37号車ドライバー)



「朝一番の状況は、『大丈夫かな』というほどおかしかったです。チームがセットアップを変更してくれて、状況は良くなり予選を迎えることができました。0.013秒差ですか。ポールを取れなかったのは悔しいですけど、チームメイトとフロントローを独占できて良かったですね。マシンの調子は良くて、気温、路面温度も高く、思った以上に早くタイヤがウォームアップできて、前を走行しているマシンに追いつきすぎてしまったのですが、落ち着いて、間隔をあけて、アタックをかけてタイムをだせました。決勝も暑くなりそうですね。タイヤのパフォーマンスに関してはブリヂストンさんを信じて頑張ります」

ニック・キャンディ(37号車ドライバー)



「練習走行で自分がマシンに乗り込んだ時には、問題なく走行できて、担当した決勝モードのロングランも安定してタイムを刻むことができている。担当したQ1で3番手につけられたのは最高だと思う。そして、亮が素晴らしいアタックで完全にポールは獲得できたと思ったら、チームメイトに持って行かれた、それも僅差で。それだけ、今回チーム全体のパフォーマンスが高かったということが証明された。決勝のセッティングには自信がある。今回は、良いレースができると思う、予選と同様にレースを終えても1-2で表彰台に立てたら最高だ」

小枝正樹(37号車エンジニア)



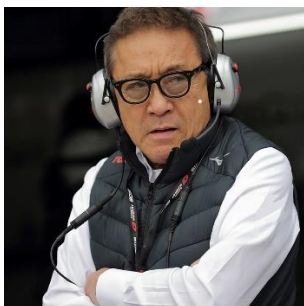
「予選日の走り出し、練習走行であまり良くない状況でした。そこでダンパーユニットを交換してセッティングを変更し、なんとか対処しました。セッティング変更が功を奏して予選ではパフォーマンスを発揮することができました。ポールポジションを獲得できたかなと思っていたのですが、最後にチームメイトに逆転されてしまいました、0.013秒差という僅差。気温が高い状況でニックに担当してもらったロングランも問題なく安定したタイムを出せているので、1-2フィニッシュが達成できれば良いなと思っています」

山田 淳(37号車監督)



「朝一番に問題を抱えていましたが、走り出して、『おかしいぞ』となって、大きくセッティングを変更せざるを得ませんでした。その結果が良かったのでホッとしたというのが本当のところですね。そして、予選になって、マシンの調子が良かったので、ポールポジションは取れたかなと思った瞬間にチームメイトの36号車に逆転されてしまったのですが、練習走行の走り出しの状況を考えれば、上出来なのですけど、やはりポールポジションが取れなかったのは悔しいですね。決勝で頑張ります」

舘 信秀(総監督)



「贅沢な悩みというか、わがトムスは2台体制で参戦しているので、しょうがないけれど、一つしかポールポジションは存在しないので36号車か37号車のいずれかしか取れない。0.013秒差という僅差。2台ともに素晴らしいコンディションであるということが証明できた。ドライバーのパフォーマンスもさることながら、エンジニアリング、メカニック、スタッフのチーム力の高さを感じて嬉しい限りですね。フロントローに2台が並ぶのはとても久しぶりのこと。クリーンなファイトでレースして、できれば1-2フィニッシュでレースを終えられたらこれまた最高。期待しててください」

2019 SUPER GT 第3戦

鈴鹿サーキット

2019年5月26日(日)

決勝 来場者：36,000人 天候：曇り

フロントローからスタートした LEXUS TEAM KeePer TOM'S 37号車は、序盤、スターティングポジションの2位を維持して走行。17周目に起きた130Rのアクシデントで、セーフティカー(SC)がコースインし、レース再開後にピットインしてドライバー交代。その時点で3位にポジションダウンした。しかし、終盤まで何度かポジションを入れ替え、最後に52周レースの49周目に2位を奪還し、36号車に続いてゴール。トムスの1-2フィニッシュを達成した。



- 今回は、スタートドライバーを平川 亮が担当した。
- スタート直後から引き離しにかかった36号車に、大きなリードを許すことなくポジションをキープし周回を重ねて行った。
- SCランが終わって、ピットインのタイミングとなったが、チーム内のルールで上位からピットインをさせることにしている為、36号車がピットインをした翌周、24周目ピットに向かった。
- ニック・キャシディに交代し、3位でコースに復帰。36号車と同周にピットインを終了していたLEXUS LC500の6号車が、2位で先行していた。
- 2位争いをしながら、GT300クラス車両をパッシングする状況の中で2位へ。しかし、数周後に130Rでオーバーランしてしまい、また3位へポジションダウン。
- そして、49周目に、GT300クラスの車両を使い、巧みなテクニックで6号車を抜き去り再び2位へポジションアップ、そのままフィニッシュした。

Driver	Car No.	Race Result/Fastest Lap	
平川 亮	37	P2	1' 49.519
ニック・キャンディ			1' 50.497

天候/路面	曇り/ドライ
気温/路面温度	29°C~28°C/42°C~40°C

平川 亮 (37 号車ドライバー)



「今回は、スターティングドライバーとしてスタートを切りましたが、自分としてはポジションをキープし淡々とラップを重ねられたかなと評価しています。1周目の勢いでは、36号車に一気に引き離されるかなと思ったのですが、それほど離されずに済みました。それよりも後ろから6号車が迫ってくる勢いの方がすごかったですね。ピットインのタイミングは、こちらが先行する36号車の1周後に入る決まりですからしょうがないです。トムスとして1-2フィニッシュできて良かったです。ようやく大量のポイントを獲得できたので、これからですね」

ニック・キャンディ (37 号車ドライバー)



「亮のドライビングも素晴らしかった。そして作戦も良くてピットワークも大きな問題はなかったと思います。今回セカンドステントを担当させてもらって、インラップからブッシュできて、順位も挽回できた。一度オーバーランして順位を落としてしまったけれど、最後に再びポジションを挽回出来て良かった。トムスの1-2は最高の結果です。次戦のタイは2017年にポール to ウィンを飾っている得意のサーキットなので、十分に優勝を狙えると思っています」

小枝正樹 (37 号車エンジニア)



「相手が 36 号車ですから、しょうがないかなと判断しています。今回は、亮をスタートドライバーにして、ニックには、セカンドステントを担当してもらいました。亮は淡々とミスなく周回を重ねてくれました。亮にとっては勝手が違ったでしょうが、なんとかまとめてくれました。ニックは自分のミスで順位を一旦下げましたが、最後に辻褃を合わせてくれました。ポイントゲットでウエイトは重くなりますが、それほど大きな影響はないと思いますし、前戦富士も今回も LEXUS はよく戦えているし、ブリヂストンさんのタイヤも好調ですから、タイも良い成績が出せると思います」

山田 淳 (37 号車監督)



「予選までの流れではどうなるかと心配していましたが、予選でフロントローを獲得でき、決勝では順位の変動がありながら終わってみれば、トムスとして 1-2 を達成できたのでこれ以上の結果はないですね。我々としても相手が 36 号車ですから、手の内もわかっているしベストな結果だったでしょう。勝利はチームのモチベーションがアップします。勝てることには越したことはないですが、トムスは 2 台、2 チームあるのでどうしても片方が勝てば、片方が勝てない。トムスとしての決まりに従ってピットインさせ、タイミングとしては良かったのですが、多少のミスもあり 6 号車に先行されました。しかし、最後にニックが 2 位を挽回してくれました。今回は、ニックが志願してセカンドステントを担当しています。そこで見せ場も作ってくれました。次戦のタイでも、この二人なら好成績を残してくれると信じています」

館 信秀 (総監督)



「終盤のエキサイティングなオーバーテイクシーン、そして、トムスの 1-2 達成という最高の結果を残してくれてうれしいです。若い二人のドライバーも経験を積んで、頼もしく思えるようになって来ました。2 台体制で参戦しているので 1 台が勝てばもう 1 台は勝てないのは当たり前だけれど、今回の 2 位は優勝するのと同じくらいの価値があったと評価しています。36 号車と 37 号車が、ハイレベルな展開を見せてくれて、レースをやっていてこれほど嬉しい瞬間はなかった第 3 戦でした。ドライバーとチームスタッフ全員に感謝しています」